

舵輪

ポインティングの甲羅干し

『ポランティア・スキーツアー』
次一航士 市川 義文

「ウインタースポーツ」と言えば、皆さんもやつぱり「スキー」が一番最初に思い浮かぶと思います。私も例外ではありません。（ちなみに私の妻は「アイスホッケー」というマニアックな答を出しますが・・・理由についてはご存じの方も多いんじゃないかと思えます。）

さて、出だしから話がそれてしまいました。本題に戻しますと、私たち船乗りはあまりスキーをする機会がありません。ひとつは、冬場にそれほど休みが取れないこともあるでしょうし、また、もし骨折でもしたらと考えると、その勤務の特殊性のため、仕事ができなくなるこの恐れもあるからでしょう。そんな考えで、私も高校生以来スキーに行った記憶がありません。しかし、航海訓練所から富山に向かしてきた者は、多かれ少なかれ冬を、雪を満喫しており、私もまた昨年からはスキーを始めようになりまして。とは言っても、昨年はドック工事もありませんでしたから、今年は運良くポランティアのスキーツアーに参加することができました。

出発日の2月12日は、朝から新聞の天気予報をしげしげと見つめ、良い雪が降りそうな予感にわくわくしていました。夜8時過ぎの出発時刻には、新湊でも粉雪がちらつき、これからの2日間が楽しくなることを確信しました。大型のデラックスなバスに皆乗り込み、富山を離れたのは、夜10時頃だったでしょうか。よく覚えていないのは、車内の一部で、普段聞けないような話題（？）に、夜遅く（日付はとくに替わっていったと思いませんが・・・）まで大いに盛り上がり、静かに寝ている人たちに、迷惑をかけていたからです。それでも一眠りはしたようで、ふと気がつくと、目的地の野沢温泉に着いていました。ホテルに入って、さらに仮眠をとるため床についたのが、3時頃だったような気がします。

翌13日は、7時に朝食をとり、身支度を済ませるとすぐにゲレンデに向かいました。土曜日ということもあり、たくさんの人出で、ゴンドラを待つのに30分くらいかかりました。とりあえず頂上を目指し、ゴンドラを降りると、リフトに乗り換えました。リフトを降りた世界は、氷点下13度、猛吹雪で視界もない状態でした。顔にあたる雪が痛くて、安物のゴーグル（水中めがねのようなもの）をつけていた私は、ゴーグルの中に入ってくる雪が凍り、まったく前が見えない状態でした。海の世界で生活する私たち（大西君と二人）は、自然が恐ろしいことは知っていました。山の天気も恐ろしいことを改めて感じました。足下もコースも分からない状態では、楽しむどころか危ないので、滑っている人を見失わないように、後ろについて山を降りることにしました。途中何度も止まりながら、麓についたのがお昼。昼食をとりながら外の様子をうかがっていても、午前の山よりは幾分良くなつてきたものの、上へ向かうゴンドラやリフトは止まってしまつたので、夕方まで下のコースを滑るしかありませんでした。それでも、ホテルに帰ってからの温泉の湯が体にしみわたつて、これ以上ないという幸福感を味わつたことが忘れられません。

夜は反省会。反省会の反省が必要なほど楽しい一時を過ごし、参加されたポランティアの方々といろいろな話もでき、前日の夜からの疲れもあつてか、一瞬のうち心地よい眠りにつきました。（同室の方々には、いびきがうるさく、迷惑をかけたかもしれない・・・）

最終日の14日は、海王丸69回目の誕生日。前日とはうってかわつて、船も味方しているかのような良い天気になり、思う存分楽しむことができました。面白い文句にあるとおり、頂上からの三六〇度の大パノラマには言葉もありません。参加することができなかつた方々、船でお祝いのため仕事をされていた方々には、大変申し訳ないと思うのですが、それは後からの話で、その時はただただ感動に浸つていたように思います。前日には行けなかつたコースも可能な限り経験し、出発時刻のぎりぎりまで楽しんで、思い残すことなく長野を後にしました。

「POINT」ってなーに？」

「POINT」ってなーに？」

SPICING THE MAIN BRACE

「POINT」ってなーに？」

ポイントといつても、「100万ポルト」で買物したときにメンバースカードに加算されるアレではありません。帆船でポイントといえは水平角度のこと。日本語では「点」と訳されています（そのままじゃないか・・・怒！）。

総帆展帆するとき、風向によっては「スターボード・タック・3ポイント」というオーダーがあります。これはヤードを右舷三点開きにせよということ。このときの3ポイントとは何度でしょうか。正確には33.75度、1ポイントは2.25度です。これは、コンパスの方位を三二方位で表したときの1方位の角度のことなのです。昔はジャイロコンパスはありませんでしたから、マグネットコンパスを使っていました。当然方位の読み方も三六〇度方式ではありませんでした。

舵輪

四つの主要方位、North(北)、South(南)、East(東)、West(西)が決まり、その中間がNE(北東)、SW(南西)等となり、これらの八方位の中間をとってNNE(北北東)やSSW(西南西)等の一六方位、またその中間をとって三二方位となったわけです。マグネットコンパスでの方位の読み方を図1と図2に示してあります。図2は1ポイントをさらに4つに分けたときの読み方です。この方法で帆船乗りは一二八方位で針路をいうことができず。だいたい船乗りでない方でも一六方位くらいはご存じだと思います。その他の読み方には、ルールがあります。基本は主要八方位から一六方位に向かって読

むということですが。たとえばNORTHから東に一点の方位はNE(ノース・バイ・イースト)と読みます。次に一点を四つに分割したときの読み方は、 $\frac{1}{4}$ (クォーター)、 $\frac{1}{2}$ (ハーフ)、 $\frac{3}{4}$ (スリークォーター)といい、これもまさに四つに分けただけといういかにも船乗りらしくシンプルな読み方ですが、 $\frac{1}{4}$ 点だけ東寄りならばNEを三二方位の後ろにくっつけて読みます。例として、NORTHからNEに向かっている読み方は、NORTH、NORTH $\frac{1}{4}$ (ノース・クォーター・イースト)、NORTH $\frac{1}{2}$ (ノース・ハーフ・イースト)、NORTH $\frac{3}{4}$ (ノース・スリークォーター・イースト)、NEとなりませぬ。

ホーンブローワーやボライソシシリーズなどの帆船小説を読むとき、「針路を一点切り上げる」と艦長が言ったときは、針路を一点だけ風上側に変えることを意味します。総帆を展開したあと、船尾の風上側に立って、「風が一点回ったな」なんてつぶやくと、本物の帆船乗りになつた気がする・・・かもしれませぬね。ところで、前回からこのコーナーの名前がスプリング・ザ・メイソプレーに変わりましたが、これはどういう意味なのでしょう。もともとの意味はメイソプレーのブレースを組み継ぎすると言いますが、これがどういう訳か、乗組員全員に祝酒を特配する」という意味に使われています。どうしてそうなったかは次回のお楽しみと言つことにします。ちなみに、私は毎日勝手にメイソプレーの組み継ぎをしています。

財団からのお知らせ

海王丸の非公開

平成11年3月1日(月)から3月19日(金)まで、船体整備(主にセイル取付準備)のため、公開を中断します。

ベンディングセイル

来年度の総帆展帆に向けて、セイルの取り付けを左記のとおり実施します。お忙しいこととは思いますが、皆様のご協力をお願いします。

日時 3月13日(土) 14日(日)
いづれも9時～16時
場所 海王丸(更衣室等は日本海交流センター研修室)
体験乗船について

平成11年度の練習帆船海王丸体験乗船(現在就航中の海王丸)世による実際の訓練航海)について、詳しく知りたい方は市川、もしくは左記のところへお問い合わせください。

問い合わせ先 記
財団法人 練習船教育後援会
〒102 0093
東京都千代田区平河町2 6 4

TEL 03(3288)0991
FAX 03(3288)0992
海運ビル9F

孫から

尋ねボランティアNo.10の「井澤嘉秀」さんについては、「舵輪」等を送付しても戻ってきてしまいます。連絡先等をご存じの方は、市川までお知らせください。

住所変更等

ボランティアの皆様で住所、電話番号等が変更になった方は展帆等の出欠はがきを利用してお知らせください。

作業服等の交換

前号でもご紹介しましたが、皆様に貸与しております作業服、高所作業帽が汚損している方は随時交換いたしますので申し出てください。

あとがき

近頃はまだ肌寒い毎日ですが、雪ではなく、雨が降るようになり、確実に春が近づいている気がします。全国に猛威を振るったインフルエンザの噂も、次第に聞こえなくなってきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

前回の発行より4ヶ月以上が過ぎましたが、特に眠っていたわけではなく、200X年県民が燃えるプログラムへのパレードの参加、餅つき大会、鏡開き大会、海王丸進水記念日を祝うチョコの配布及び満船飾等、様々なことがありました。いろいろな場面で活躍頂いた皆様はこの場を借りまして、改めてお礼申し上げます。

さて、ベンディングセイルを皮切りに、新たな活動の時期に入ります。今年も皆様のご協力ををよろしく願っています。今年も皆

ITTY

K A I W O M A R U